

● 工学部 機械工学科（高一種免【工業】）

工学部においては、個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識並びにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む）を育成するべく教育の充実を図ってきました。

機械工学科は、数学と物理学における基礎的な理解力・応用力と、これらに基づいた機械工学の最も基礎的・普遍的な専門知識と概念を修得させるとともに、各種機械の設計・製作・評価・管理に関する学術分野の教育を行い、主として力学・制御、エネルギー・流体、生産プロセス及び工学設計の領域の知識・能力を身につけた有能な人間を育成しています。

教員免許「高一種免（工業）」は、機械工学科の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。(1)機械工学基礎分野では工業力学他、(2)力学制御分野における材料力学・制御工学、(3)エネルギー・流体分野、生産プロセス分野の科目、(4)工学設計分野の機械設計製図、CAD/CAM、(5)コンピュータ応用工学の分野の科目などを履修させると共に、教科専門の立場から教育実習を含め教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携し指導を行っています。これらのカリキュラムを通して、工業高等学校「機械系」(教科工業)の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 工学部 都市建設工学科（高一種免【工業】）

工学部においては、個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識並びにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む）を育成するべく教育の充実を図ってきました。

都市建設工学科では土木工学を基盤として、人間が生活する上で安心・安全かつ快適な社会基盤の整備や持続発展可能な地球環境の開発・保全に関する学術分野の教育を行い、主として計画、設計、施工、管理などの専門的又は実務的な領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成しています。

教員免許「高一種免（工業）」は、都市建設工学科の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。専門科目の、(1)建設一般の分野では基本製図、測量学、施工法、(2)建設構造、建設材料の分野の科目、(3)都市水工の分野では水理学他、(4)地盤防災の分野の土の力学他、(5)都市環境の分野の都市と環境などの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教育実習を含め教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携し指導を行っています。これらのカリキュラムを通して、工業高等学校「土木系」（教科工業）の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 工学部 建築学科（高一種免【工業】）

工学部においては、個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識並びにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む）を育成するべく教育の充実を図ってきました。

建築は機能を満たし、安全、快適で美しさが求められます。建築学科では歴史、都市、社会との関わりを基礎に、空間創造のための建築デザイン、安全な建築を造るための材料と構造、建築内外の環境の学術分野の教育を行います。そして、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画の領域の知識を修得し、デザイン能力があり、人間の幸福を実現できる有能な人間を育成しています。

教員免許「高一種免（工業）」は、建築学科の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。(1)建築計画・都市計画の分野の科目、(2)構造力学の分野の構造力学他、(3)建築材料・施工分野の科目、(4)建築環境分野の科目、(5)建築デザイン分野の基本製図他、(6)建築と社会・歴史分野の科目、などの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教育実習を含め教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携し指導を行っています。これらのカリキュラムを通して、工業高等学校「建築系」（教科工業）の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 工学部 応用化学科（高一種免【工業】・高一種免【理科】）

工学部においては、個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識並びにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む）を育成するべく教育の充実を図ってきました。

応用化学科では、物質の変化に関する化学の基礎的概念を理解させ、これに基づいた化学の専門知識を修得させるとともに、化学計測、無機・有機及びナノ複合材料、エネルギー、環境などに関する学術分野の教育を行い、主として物性化学、無機化学、有機化学、及び環境化学工学の領域の知識・能力を身に付けた有能な人間を育成しています。

教員免許「高一種免（工業）」「高一種免（理科）」は、応用化学科の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。

「高一種免（工業）」に対しては、(1)応用化学基礎分野から基礎化学工学、(2)物性化学分野の科目、(3)無機化学分野の科目、(4)有機化学分野の理論有機化学他、(5)環境化学工学分野の科目、(6)応用化学各分野の実験科目などを履修させると共に、教科専門の立場から教育実習を含め教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携し指導を行っています。これらのカリキュラムを通して、工業高等学校「化学系」(教科工業)の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

「高一種免（理科）」に対しては、(1)物理学分野の力学、基礎電磁気学、熱学などの科目、(2)化学の分野の基礎分析化学、基礎無機化学、基礎有機化学など、(3)生物学分野の生物概論など、(4)地学の分野の地学概論など、(5) 応用化学各分野の実験科目などを履修させると共に、教科専門の立場から教育実習を含め教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者との連携も上記と同様に行っています。これらのカリキュラムを通して、高等学校教科「理科」の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 工学部 情報工学科（高一種免【工業】・高一種免【情報】）

工学部においては、個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識並びにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む）を育成するべく教育の充実を図ってきました。

情報工学科では、情報工学の技術と知識の基礎を身につけ、システムモデルを構築する能力を伸ばすための教育を行い、主としてソフトウェア、通信ネットワーク、ハードウェア、システム制御に関する知識・能力を修得した有能な人間を育成しています。

教員免許「高一種免（工業）」「高一種免（情報）」は、情報工学科の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。

「高一種免（工業）」に対しては、工学部共通科目から環境工学、安全工学、工学倫理などの科目、専門科目の、(1)情報基礎分野の情報数学、情報理論などの科目、(2)ソフトウェア分野の科目、(3)情報ネットワーク分野の科目、(4)ハードウェア分野のデジタル回路などの科目、(5)システム制御分野の科目などを履修させると共に、教科専門の立場から教育実習を含め教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携し指導を行っています。これらのカリキュラムを通して、工業高等学校「情報系」（教科工業）の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

高等学校教科「情報」に対しては、(1)情報社会及び情報倫理分野の企業情報システムと倫理、(2)コンピュータ及び情報処理分野のC言語応用など、(3)情報システム分野のソフトウェア工学など、(4)情報通信ネットワーク分野の通信ネットワークなど、(5)マルチメディア表現及び技術分野の音声情報処理、画像情報処理などの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教育実習を含め教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者との連携も上記と同様に行っています。これらのカリキュラムを通して、高等学校教科「情報」の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 工学部 電気電子システム工学科（高一種免【工業】）

工学部においては、個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識並びにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む）を育成するべく教育の充実を図ってきました。

現代産業の根幹を担う分野が電気エネルギーを利用する電気工学とエレクトロニクスを中心とした電子情報工学であると言っても過言ではありません。電気電子システム工学科は、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信の学術分野への教育を行い、電気電子工学の基礎と応用、自然環境や人類の福祉、情報化社会への対応、能動的な行動力と問題解決、国際化への対応の領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成しています。

教員免許「高一種免（工業）」は、電気電子システム工学科の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。(1)電気電子基礎学分野では電磁気学、電気回路、電子回路、(2)電力・設備分野では電力工学など、(3)電機・計測制御分野では電気計測など、(4)材料・デバイス分野では電気電子材料・電子デバイス工学など、(5)システム・通信分野ではデジタル回路などを履修させると共に、教科専門の立場から教育実習を含め教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携し指導を行っています。これらのカリキュラムを通して、工業高等学校「電気系・電子系」（教科工業）の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 経営情報学部 経営総合学科（高一種免【商業】）

経営情報学部では、豊かな教養、自立心と公益心とともに、企業経営と情報技術に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、自ら学び続ける能力を身につけ、広く国際的視野から物事を考え実行する専門職業人／有識社会人となる有為の人間を育成するべく教育の充実を図ってきました。

経営総合学科では、それぞれの学生の興味・関心や適性に合った多様な能力を伸ばし、多様化・複雑化する社会経済の下での予測困難な時代への対応力を備えた、以下のような人材の養成を目標としています。

- ① 企業組織・経営戦略に関する諸理論を理解し、現実の組織行動を論理・実証的にとらえることができ、組織体の存続可能性に貢献できる人材
- ② マーケティングの諸理論を理解し、実際の企業事例などを対象にして、グループワークあるいは単独で市場動向の調査・分析ができ、所属する組織に貢献できる人材
- ③ 情報化社会における企業等の活動において、情報の重要性を理解し、それをさまざまな職場で活用できる人材
- ④ 会計学に関する基本的な知識を身に付け、その知識を活用しながら企業活動のさまざまな分野で活躍する人材

教員養成に対しても、経済のグローバル化・IT化と企業経営の有り方について考える力、企業の経営状態、職場環境、組織の有り方などについて分析・洞察できる力、会計および情報に関する実践的な専門能力など企業経営および関連分野の豊富な知識・技能に加え、専門職業人・社会人としての人間的資質を備え、高校生を社会に貢献できる職業人へと指導育成することを自らの使命に活躍できる人物の養成を目標としています。

● 国際関係学部 国際学科（高一種免【地理歴史】・高一種免【公民】）

国際関係学部においては、社会科学ならびに人文科学の立場から、国際関係・文化の動向・諸事象を、政治・経済・社会・文化等の知見をもって総合的・包括的、グローバルかつローカルな視点から考察し、国際化する社会のさまざまな現場で、実際に活躍できる国際社会における「不言実行・あてになる人間」を育成するべく教育の充実をはかってきました。

国際学科では、政治・経済と社会・文化の繋がりを重視し、学際的(inter-disciplinary)な視野を備えつつ、国際的な知識・感性・倫理観・言語能力・実践力を持った、グローバルな人材を育成しています。

教員養成に対しても、歴史や地理を切り口として政治や経済のグローバル化を理解し、民族や宗教にまで視野を広げて学習成果を教示できる教員の養成を目指しています。地理歴史や公民といった科目に対して、深い理解と幅広い知識を有しているだけでなく、複雑化する地域社会から学び続け、グローバルな視野を備えた新しい時代の教育の担い手として、地域と共にある多種多様な教育現場で社会に参画しうる教員を輩出することを目標としています。

高一種免（地理歴史）および高一種免（公民）においては、「法学概論」「政治学概論」「経済学概論」「世界史概論」「人文地理学」などの基本科目を配しています。さらに本学科の特徴である「学際的な視野を備え、分析力と実践力を持つ社会科教員」の育成のために、「国際協力論」「比較社会論」「比較宗教学」「人間と環境」などを配しています。これらの科目を履修することにより、「多文化共生社会」の道を探り、「持続可能な社会」実現を構想しうる教員の養成が可能になると考えています。

● 人文学部 日本語日本文化学科（高一種免【国語】・中一種免【国語】）

人文学部においては、人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の過程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成するべく教育の充実を図ってきました。

日本語日本文化学科は、世界の中の日本という視点から言語、文学、文化を深く理解することによって、国際社会の中での日本文化の意義を探究し、併せてそのための読解力、思考力、表現力の錬磨をとおして、現代社会における様々な分野に適応できる有能な人材を育成しています。

教員養成に対しても、日本語、日本文学、日本文化についての基礎知識を学ぶとともに、幅広い視野に立って教科指導の高度な専門知識を習得し、教員としての自覚と使命感、資質能力を身に付けた人材の育成を目標としています。その具現化のために、日本語日本文化学科では教職指導体制を構築し、学生が主体的に取り組める授業内容、指導方法を工夫しています。

「中一種免（国語）」「高一種免（国語）」の教科指導に関する教育課程には、基本的な国語科目を配置するとともに、日本語日本文化学科の科目と関連性が深くなるように多くの専門教育科目を設置しています。日本語日本文化学科の専門教育科目のうち、日本語学入門、日本語講義、日本語学演習、日本語の歴史、日本語研究史、日本文学入門、古典文学講読、近現代文学講読、古典文学講義、近現代文学講義、日本文学史、日本文学演習、漢文学、中国文学、書道などが教科に関する科目になっています。これらの科目を履修することで、教科指導に関する教養と専門性が涵養できるものと考えています。

● 人文学部 英語英米文化学科（高一種免【英語】・中一種免【英語】）

人文学部においては、人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の課程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな共用をもった品位ある人格を育成するべく教育の充実を図ってきました。

英語英米文化学科では、1)本格的な英語運用能力・異文化間コミュニケーション能力を有する人材の育成、2)英語圏の文化について深い知識と理解をもった人材の育成、3)日本というしっかりした基軸に立ち、自分を表現、行動、問題解決のできる人材の育成を目標としています。

教員養成に対しても、生徒の模範として、高度な英語運用能力や英語圏の文化に対する深い知識を持ち、国際市民の一人として世界的な視野で発想・行動のできる英語教師を輩出することを目標としています。2年次には同学年の約半数が英語圏の大学で約4ヶ月の間、研修をします。現地でルームメイトと生活しながら、現地の学生と混じってアカデミッククラスや体育なども履修する本格的な留学です。これを経験することで、実践に裏打ちされたコミュニケーション能力や異文化理解能力をもった英語教員を養成します。

カリキュラムでは、英語学、英米文学、英語コミュニケーション、異文化理解の分野で、これからの英語教師に求められる最新の知識や技能を提供すべく、多くの専門科目を設置しています。特に、言語学入門、英米文化入門、応用言語学、英語で学ぶ言語習得論、英語の発音、English for Academic Purposes、Integrated English、Communicative Grammar、異文化コミュニケーション、早期英語教育論などは、英語教員養成を強く意識して設置してあります。この他、主な専門科目として、英語のしくみ、英語の歴史、グローバル英語、異文化適応入門、英米の文学、英米の歴史と社会、日・欧・米比較文化論、英語英米文化演習、英語で学ぶアメリカ事情、英語で学ぶイギリス事情、英語で学ぶオーストラリア事情、English for Social Change などが開講されており、これらを履修することで、英語教員としての基礎的な専門的知識を網羅的に養うことができると考えています。

● 人文学部 コミュニケーション学科（高一種免【公民】・中一種免【社会】）

人文学部においては、人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の課程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成するべく教育の充実を図ってきました。

コミュニケーション学科は、多様化する表現メディアを適切に活用できる技術とメディア文化の専門的研究の知見を身につけ、地域における実践的活動を通して最適なコミュニケーション・デザインとコミュニティ・デザインを提案し、社会のより良い文化情報環境に寄与できる「文化情報デザイナー」（教員・学芸員・司書等の有資格者を含む）を育成しています。

教員養成に対しても、情報社会の実態についての基礎を学ぶとともに、情報が社会にとっていかに重要な意味を持つかを理解し、社会に溢れる情報に対する批判的な思考力や、確かな言語能力に裏付けされた自己表現力を培い、それらをもって生涯学びつづけ、「良き市民」として社会問題の是正に立ち向かう姿勢を持つ人間力を育成することを目指しています。このような教育を通して、総合的観点から物事を分析し判断する力、およびそれらに基づく指導力を実践的に培い、次世代の社会の中で人を支え、導くことができる人材を輩出することを目標としています。

特に、教員免許「高一種免（公民）」「中一種免（社会）」の教職課程は、基本的な社会科目を配置するとともに、コミュニケーション学科の科目と関連性が深くなるように設置されています。コミュニケーション学科の専門科目には社会学、社会とことば、メディアの法と倫理、ジャーナリズム論、政治とメディア、地域とメディアなど、社会の中でのコミュニケーション活動について学ぶことができる多くの科目が配置されており、これらの科目を履修することで現代社会の基本的な構図や課題などを理解するとともに、高校での「公民」や「社会」を教えるための教養と専門性が養えると考えています。

● 人文学部 心理学科（高一種免【公民】）

人文学部においては、人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の課程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成するべく教育の充実を図ってきました。

心理学科では、基礎的な研究方法や技術を学び、認知、教育・文化、発達・社会、臨床などの各分野の専門知識を深く理解し、また統合し、心の問題に対処できる力量をもった健全で成熟した社会人を育成しています。

教員養成に対しても、心に関する幅広い専門知識はもちろん、心について客観的に理解するための研究手法、さらには心の問題解決のための具体的な手立てを習得することを重視しています。これにより、教育者の資質として要求される個々の子どもたちへの深い洞察力、ならびに様々な教育実践活動を適切に行っていくための指導力を兼ね備えた教員を輩出することを目標としています。

また、心理学科で取得可能な教職免許の「高一種免（公民）」は、公民の基本となる科目を配置するとともに、感情・人格心理学、社会・集団・家族心理学、行動科学、文化心理学、健康・医療心理学といった、人間の心の基本的なメカニズムや、現代社会と人間の心の関係について学習する科目を幅広く配置しています。こうした科目を履修することにより、現代社会の諸相および課題について、人間の心のあり方や行動様式の特徴を踏まえた理解を深め、高校の「公民」を指導するための教養と専門性を獲得していくことを見込んでいます。

● 人文学部 歴史地理学科（高一種免【地理歴史】・中一種免【社会】）

人文学部においては、人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の課程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成するべく教育の充実を図ってきました。

歴史地理学科では、あらゆる事象や問題を「歴史的な経緯」と「地理的な視野」を併せて考察・学習し、現代を生きていくために必要な深い洞察力と見識、歴史的・地理的センスを身につけた人間を育成します。

教員養成に対しても、学生に歴史学と地理学それぞれの分野に関する専門教育科目の修得を義務づけることにより、両分野に精通した高度な知識と専門性を有する教員を輩出することを目標としています。

さらに資料の解読・分析といった歴史学的方法論と社会現象を空間的な視角から分析する地理学的方法論の習得、野外実習を通じたフィールドワーク調査法の習得、資料をコンピューター上で分析・表現する手法の習得等を具体的目標とすることで、生徒やその集団の特性、および生徒が在籍する学校を含む地域社会に即した独自の教材を開発する能力を養成することが可能であると考えています。

● 応用生物学部 応用生物化学科（高一種免【理科】・高一種免【農業】）

応用生物学部の教育目的は、現代の生物科学の爆発的な発展の状況を受け、21世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全および食育環境の向上を目的とする産業および民生部門で活躍する職業人を育成することです。

応用生物化学科においては、バイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、微生物や動植物の多様な生物機能の利用技術を支え、発展させるとともに、先端の生物科学の情報にも精通し、人類の生存に有用な手段を提供し、広くバイオ産業界で活躍しうる人間を育成しています。

教員免許「高一種免（理科）」「高一種免（農業）」は、応用生物化学科の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。

「高一種免（理科）」に対しては、専門教育科目の、(1)物理学分野では基礎物理学他、(2)化学の分野では基礎化学、生物化学、生物有機化学 (3)生物学の分野では基礎生物学、微生物学、基礎生理学、分子生物学、細胞生物学など、(4)地学分野では基礎地学他、(5)実験分野では、理科4分野の基礎的実験の他にこの学科の特徴ある実験を用意している。これらの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携指導し、特に、教育実習では教科専門の立場から指導・助言を行っています。これらのカリキュラムを通して、高等学校教科「理科」の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

「高一種免（農業）」に対しては、農業の関係科目として、専門教育科目の、(1)学部共通関連科目の環境問題入門他、(2)学部基礎科目から分析化学と応用微生物学、(3)学科専門科目の天然物化学、生体高分子学、応用タンパク質科学、微生物生態学、植物細胞工学、ケミカルバイオロジー、そして実験では、天然物化学実験、応用微生物学実験など、これらの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者との連携、教育実習での指導・助言も上記と同様に行っています。これらのカリキュラムを通して、本学科の特徴を持った高等学校教科「農業」の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 応用生物学部 環境生物科学科（高一種免【理科】・高一種免【農業】）

応用生物学部の教育目的は、現代の生物科学の爆発的な発展の状況を受け、21世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全および食育環境の向上を目的とする産業および民生部門で活躍する職業人を育成することです。

環境生物科学科においては、環境に係るバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、環境の状況を科学的に評価し、環境の汚染と破壊をなくし、循環社会の実現に貢献する能力のある人間を育成するとともに、あらゆる産業・社会分野において環境問題にきわめて意識の高い職業人・技術者・社会人を育成しています。

教員免許「高一種免（理科）」「高一種免（農業）」は、環境生物科学科の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。

「高一種免（理科）」に対しては、専門教育科目の、(1)物理学分野では基礎物理学、(2)化学の分野では基礎化学、無機化学、有機化学、生物化学、など、(3)生物学の分野では基礎生物学、微生物学、動物生理学、分子生物学、など、(4)地学分野では基礎地学、地球環境学、(5)実験分野では、理科4分野の基礎的実験の他にこの学科の特徴ある実験を用意している。これらの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携指導し、特に、教育実習では教科専門の立場から指導・助言を行っています。これらのカリキュラムを通して、高等学校教科「理科」の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

「高一種免（農業）」に対しては、農業の関係科目として、専門教育科目の、(1)学部共通基礎科目の分析化学、(2)(3)学科専門科目では、環境問題入門、バイオマス論、植物遺伝資源論、自然保護論、環境工学、生態学概論、環境動物学、水圏環境学など、そして(4)実験では、環境植物学実験、水圏環境分析実験、土壌圏環境実験、食品化学基礎実験など、これらの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者との連携、教育実習での指導・助言も上記と同様に行っています。これらのカリキュラムを通して、本学科の特徴を持った高等学校教科「農業」の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 応用生物学部 食品栄養科学科食品栄養科学専攻(高一種免【理科】・高一種免【農業】)

応用生物学部の教育目的は、現代の生物科学の爆発的な発展の状況を受け、21世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全および食育環境の向上を目的とする産業および民生部門で活躍する職業人を育成することである。

食品栄養科学科食品栄養科学専攻においては、最先端のバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する基礎教育を基盤として、現代の食を取り巻く種々の状況・問題を理解、解決するための知識や技術を修得し、食品産業界のみではなく、医薬品・健康産業や生物生産業など広い分野で活躍できる「食」のプロフェッショナルを育成しています。

教員免許「高一種免(理科)」「高一種免(農業)」は、上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。

「高一種免(理科)」に対しては、専門教育科目の、(1)物理学分野では基礎物理学他、(2)化学の分野では基礎化学、生物化学 I、II、有機化学 I、II、(3)生物学の分野では基礎生物学、微生物学 I、動物生理学、分子生物学 I、II、微生物学 I、細胞生物学など、(4)地学分野では基礎地学他、(5)実験分野では、理科4分野の基礎的実験の他にこの学科の特徴ある実験を用意している。これらの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者とは適時連携指導し、特に、教育実習では教科専門の立場から指導・助言を行っています。これらのカリキュラムを通して、高等学校教科「理科」の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

「高一種免(農業)」に対しては、農業の関係科目として、専門教育科目の、(1)学部基礎科目の分析化学、応用微生物学、(2)関連科目の環境問題入門他、(2)専攻専門科目の食糧問題入門、基礎食品栄養科学、食品分析学、食品化学 I、食品機能学、食品製造加工学、食料資源流通学、農学概論、そして実験では食品分析学実験など、これらの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教師になるための指導・助言を与えています。また、教職課程担当者との連携、教育実習での指導・助言も上記と同様に行っています。これらのカリキュラムを通して、本学科の特徴を持った高等学校教科「農業」の教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 応用生物学部 食品栄養科学科管理栄養科学専攻（栄養一種免）

応用生物学部の教育目的は、現代の生物科学の飛躍的な発展の状況を受け、21 世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全および食育環境および健康の向上を目的とする産業、民生部門および医療施設などで活躍する職業人を育成することです。

食品栄養科学科管理栄養科学専攻においては、最先端のバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する基礎教育を基盤として、現代の食と健康を取り巻く種々の状況・問題を理解、解決するための知識や技術を修得し、管理栄養士として医療、福祉、給食産業での活躍はもとより、食品産業、医薬品・健康産業や生物生産業など広い分野で活躍できる「食」と「健康」のプロフェッショナルを育成しています。

教員免許「栄養教諭一種免」は、食品栄養科学科管理栄養科学専攻の上記理念に立って、科学・技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、日常生活・食生活の変化、栄養・医学知識の発展、国際化などの社会変化に対応でき、食生活の在り方を考え、自らの責任の上で食生活を実践し、健康な生活を営んでいく力を有する人間を育てるため、特に食に興味をもち、成人してからの食生活を支配する幼児期・学童期における食教育を担う栄養教諭育成を目的として設置されています。

「栄養教諭一種免」に対しては、1 年次にスタートアップセミナーで大学の教育目的の意識づけを行い、学部基礎科目における分子生物学や細胞生物学などからバイオサイエンスを、学科・専攻関連科目における食糧問題入門や環境問題入門などからフードシステムなど応用生物学部としての基礎知識を修得します。また専攻専門科目として(1)社会・環境と健康、(2)人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、(3)食べ物と健康、(4)基礎栄養学、(5)応用栄養学、(6)栄養教育論、(7)臨床栄養学、(8)公衆栄養学、(9)給食経営管理の管理栄養士養成課程の専門分野の講義・実験実習科目を履修し、さらに栄養に関する科目として現代食育論からは栄養教諭の役割及び職務内容、幼児・児童及び生徒の栄養にかかわる課題、食生活に関する歴史的及び文化的事項を、学校栄養指導論からは食に関する指導方法を修得します。卒業演習や卒業研究においては、目標達成に向けてのプログラム計画、実践、反省と PDCA サイクルを修得します。

また、教育に関する科目の履修により教育指導の専門家としての知識を修得し、専門科目担当者と教職課程担当者との連携を図りつつ、教育実習では教科専門の立場から指導・助言、教職実践演習では教育実習後の反省を踏まえた指導を行っています。これらのカリキュラムを通して、栄養教諭になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 生命健康科学部 保健看護学科（養護一種免）

生命健康科学部では、21 世紀型の疾病の発症のしくみを医科学的および生命科学的に解明してこれを予防し、あるいは生活・職場環境を予防健康管理の視点で保全して、保健・医療産業等での開発研究や一般企業を含む地域社会の予防健康管理を牽引する研究・技術者や臨床検査技師等の専門家および、基幹病院等における高度先進医療ならびに地域社会や家庭での看護と保健を、医師等の他の医療専門職と連携しつつも自律性をもって遂行できる看護師、保健師を育成しています。

保健看護学科では、21 世紀型の新しい医療に適切に対応できる看護師や保健師の育成を目的としています。そのためには、高度医療にも地域医療にも対応できる専門性と、人間の尊厳を基盤とする倫理観、専門職としての自律性とリーダーシップおよびマネジメント能力などの基礎を修得し、さらにそれらについて、病院や保健施設、訪問看護ステーションなどでの臨地実習によって認識を深め、実践能力を高めなければなりません。

養護教諭養成としては、命の営みを科学する「医学、生命科学の学び」と、「生命の尊厳に基づいた全人的な看護の学び」を基盤として、命を護り育てる専門職としての人材育成が本学の特徴です。子どもたちが社会の中で生き生きと希望を持って生きることができるよう、そして、子どもたち一人ひとりの持つ「成長する種」が、豊かな実りに向かって育つよう、学校全体としての教育保健的活動に関与しつつ、「護り育む」ことにエネルギーを注げる養護教諭を育成します。

● 現代教育学部 幼児教育学科 (幼稚園一種免)

中部大学の建学の精神および教育理念のもと、平成20年4月に7番目の学部として現代教育学部が設置され、幼児教育学科と児童教育学科(現「現代教育学科」2017年4月1日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載)の2学科が創設された。

幼児教育学科に関しては、近年、家庭や地域社会の教育力の衰退、人間関係の希薄化など社会状況の変化にともない、就学前の教育・保育が抱える問題が複雑・多様化する一方、幼稚園教員あるいは保育関係者が対応すべき課題が山積している。例えば、健全な心身の発達が不十分な幼児、周囲の環境や集団になじめない幼児、外国籍の幼児等への支援、子育てに不安を抱く保護者や児童虐待への対応、幼保小連携の問題等、幼稚園あるいは保育現場の抱えている問題は多岐にわたる。

こうした状況に対応するために、幼児教育学科では、幼児に対して広い視野と温かいまなざしと愛情に裏打ちされた専門的な知識と技能を修得し、かつ自らの生甲斐として、継続的に自己の教育者としての成長を追求する言行一致型の教育者を養成することを理念として教育の充実を図ってきた。

この理念のもとに、幼児教育学科では、①温かい愛情のまなざしと豊かな感性を備えた幼稚園教諭としての人間性の涵養と自己の子ども観の形成、②専門職業人としての使命感、責任感に基づいた幼児教育の専門的知識と実践的技能的修得、③幼児教育をめぐるさまざまな今日的・将来的課題について論じ、適切な対応を考えることができる思考力・判断力の形成、④さまざまな幼児教育現場のニーズに対応できる教育実践力と教師としての資質向上へ意欲を持ち、自己を研鑽し続けること、⑤教育実践に取り組むために高い保育技術と豊かな表現力を修得し、さまざまな人々と連携して子どもをともに育てることのできるネットワークを築くことのできる力量形成を教育目標とし、幼稚園教諭の養成をしてきた。

また、幼稚園教諭一種免許状取得するために必要な専門的学識の修得と実践技能の向上をもたらす「基幹的カリキュラム」を精選・集約し、体系化した教育課程を編成している。具体的には、幼児教育の基礎理論を学ぶ科目、幼児理解のための科目、実践力を養う科目、幼児教育現場のニーズに対応するための科目を配置し、体系的に学習することを通して、幼児教育の諸問題の多角的な把握の仕方やその解決方法について専門的力量を形成していくように図っている。教育実習(幼稚園)についても他資格実習との兼ね合いや、事前の学外における子どもとのふれあい体験の環境を設定することで体系づけている。体系化された教育課程を通して専門知識と実践的指導力を修得し、最終段階での保育・教職実践演習(幼稚園)において自己の専門性の修得状況の点検評価をし、専門性の補足、発展を図れるようにしている。

● 現代教育学部 現代教育学科 現代教育専攻（小一種免、特支一種免、中一種免【理科】）

中部大学の建学の精神および教育理念のもと、平成20年4月に7番目の学部として現代教育学部が設置され、児童教育学科（現「現代教育学科」2017年4月1日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載）と幼児教育学科の2学科が創設された。現代教育学科では、教育実践力、教育支援力を備えた専門的職業人の養成を目指し、教育目標として「次世代教育」のあり方についての深い知識、教育実践力および「人間的資質」を備えた人材を養成することを掲げた。現代教育学科では、次世代を健全に育成する人材、とりわけ児童や生徒に対して温かいまなざしと愛情に裏打ちされた専門的な知識をもち、自らの生き甲斐として継続的に専門的知識を深め、自己の成長を追究する言行一致型の教育者を養成することを目標としている。

現代教育学科 現代教育専攻の教育目標を達成するために、現代教育専攻には小学校教諭および特別支援学校教諭の免許取得を可能にする教育課程のもとに教育研究活動を推進している。とくに現代的課題である科学教育や国際理解教育という2つの柱をすえて、人類の拠り所である自然とその法則を理解させ、客観的科学的思考の基礎を形成し、“理科離れ”を改善できる教員、地域の特色である外国人子女教育などに貢献する多文化共生に理解のある教員を養成する教育課程になっている。またコンピュータを学校教育に生かすための実践力や多様な子どもを理解しさまざまなニーズを持つ子どもへの教育支援力の養成にも力を入れている。以上のように時代に即応した特徴ある小学校教諭、特別支援学校教諭等の人材を養成する教育課程である。

現代教育学科 現代教育専攻は小学校教諭と特別支援学校教諭の2つの教職課程に加えて平成24年度より中学校教諭（理科）の教職課程を設置した。

この目的は、本学の建学の精神と教育理念に則って学科の特色である科学教育をさらに発展させ、児童のみならず生徒の理科離れを改善できる人材すなわち中学校において理科教育に貢献できる高度な教育実践力を持つ教員を養成することである。本学は、中部工業短期大学を基礎としており、工学部、応用生物学部、生命健康学部という理系（自然科学系）の学部教育および大学院教育も充実させて来ており、理系の資質を備えた卒業生を輩出してきた。また学内外に理系のテーマによる研究成果の発表会や講座が開催されることも多く、社会的にも理系色の濃い大学として認知されている。そこで現代教育学部現代教育学科の教員養成においても、本学の特色を生かして理科の中学校教諭の教職課程を設置し、現代的教育課題である「理数力低下」や「理科離れ」の問題に立ち向かうことのできる、理科教育に情熱と自信をもつ中学校教諭を養成することを目指した。このことにより現代教育学科の教育の柱である科学教育をさらに拡充して推進していきたい。中学校教諭（理科）の教職課程においては実験や演習などの少人数教育が必要となるが、本学は自然科学系の教育課程を履修した大学院生も多く、ティーチングアシスタント制度などによる教育支援の環境が整っており、学内の人的および物理的資源を生かした教職課程を運営す

ることができる。

中学校（理科）の教職課程を設置したことは、また、現在の小学校教諭の養成においても積極的な意味があると考えます。昨今では理科教育に苦手意識のある小学校教諭も多く、理科教育に関する研修が必要であると考えられる小学校教諭が半数近いという調査もあり（科学技術振興機構、平成20年）、小学校教諭の免許状と同時に中学校（理科）の免許状を取得すること、すなわち、専門的に理科教育を学修して理科教育に自信をもつ小学校教諭が育つことも、教育界のニーズに即応した意義のあることである。

なお、中学校教諭（理科）の教科や教職に関する科目の教育課程上の位置づけであるが、専攻専門科目として位置付けている。専攻専門科目は、基幹科目、小学校教育科目、中学校理科教育科目、特別支援教育科目の4分類とし、基幹科目の一部と中学校理科教育科目におかれた科目を中学校教諭（理科）の教職課程の科目としている。

● 現代教育学部 現代教育学科 中等教育国語数学専攻

(中一種免【国語】、中一種免【数学】)

現代教育学科は、教育実践力、教育支援力を備えた専門的職業人の養成を目指し、教育目標として「次世代教育」の在り方についての深い「専門的知識」および高い教育実践力を伴った「人間的資質」を兼ね備えた人材を養成することを理念として掲げている。

平成29年度に「中等教育国語数学専攻」を開設し、義務教育の基礎・基盤である国語・数学について、教科指導における高い専門性を持つ中学校教員を養成することを目標としている。

中等教育国語数学専攻では、次の三つを柱に据えて中学校教員の養成を行う。

1. 教科指導において確実な力を有し、「あてになる」教員
2. 現代的ニーズに対応できる教員
3. 地域の要請に応えられる教員

中学校教諭一種：国語

中学校国語の教員養成においては、アクティブ・ラーニングなど新しい指導法を身につけ、生徒の国語力向上に指導力を発揮できる教員を養成する。それに加え、次の二点において特色を有する教員養成を行う。一つは、日本語指導が必要な生徒の多い東海地区にあって、日本語を母語としない生徒を対象に日本語学習支援のできる教員。もう一つは、「書のまち春日井」として書道文化の継承を掲げる地元春日井市にふさわしく、伝統文化の継承に貢献できる教員である。

中学校教諭一種：数学

中学校数学の教員養成においては、小学校算数との接続を見通し、数学の面白さを伝え、数学嫌いをなくして、数学の好きな生徒を伸ばせるような指導力を持つ教員を養成する。ものづくりの盛んな東海地区にあって、理数系に強い生徒を育てることは、重要な課題である。また、ビッグデータ時代に即した統計的課題、コンピュータ・ネットワークやセキュリティの問題など、現代的課題への対応力を持つ教員が中学校でも必要とされており、ICTの活用に長けた数学科教員、という特色ある教員養成を行う。

● 工学研究科 機械工学専攻（高専修免【工業】）

工学研究科においては、人間形成に必要な教養、普遍的な幅広い基礎知識、専門知識並びにその応用力を修得し、時代の要請に応え、さらに時代を先取りする工学的技術開発とそれを支える基礎学理の教育研究を行って、発想を具現化するための複眼的な論理的思考法を訓練します。それにより、地域社会から国際社会において幅広く柔軟に活躍できる能力を身に付け、開拓者精神が旺盛で心身共に健全な技術者の育成を行い、有能な人間の育成をするべく教育の充実を図ってきました。博士前期課程においては、技術・研究開発においてプロジェクトをリードし、工学的技術とその基礎学理を維持発展させる能力のある高度な技術者の育成を目的とします。

機械工学専攻では、数学と物理学を基礎とし、知能化により人類の活動を時間的にも空間的にも飛躍的に広げる各種機械ならびにシステムを設計・製作・評価・管理する学術分野の教育研究を行い、主として設計工学、エネルギー工学、生産工学、精密工学の領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成します。

教員免許「認定課程：高等学校教諭専修免許（工業）」は、機械工学専攻の上記理念に立って、より高度な最先端科学技術を知り、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代の若者を育てるための高校教員育成を目的として設置されています。研究科共通科目において工学の基礎知識および先端技術に関する知識を身につけるとともに英語能力の向上を図ります。機械工学専攻の選択科目によって機械工学の各分野についての基礎知識を確実に身につけるとともに高度な先端技術に関しても理解する能力を養います。特別研究による研究を通じた教育により創造性および自立性を養います。また研究結果を正確に伝えるための自己表現能力を育成します。未知の問題に取り組み、それを創造力を持って解決することができ、絶え間なく進化する高度な技術に対応できるよう持続的に努力して、生徒の教育ができる教師を育成することを目標とします。また、教職課程担当者とは適時連携し指導を行っています。

● 工学研究科 電気電子工学専攻（高専修免【工業】）

工学研究科においては、人間形成に必要な教養、普遍的な幅広い基礎知識、専門知識並びにその応用力を修得し、時代の要請に応え、さらに時代を先取りする工学的技術開発とそれを支える基礎学理の教育研究を行って、発想を具現化するための複眼的な論理的思考法を訓練する。それにより、地域社会から国際社会において幅広く柔軟に活躍できる能力を身に付け、開拓者精神が旺盛で心身共に健全な技術者の育成を行い、有能な人間の育成をすべく教育の充実を図ってきた。博士前期課程においては、技術・研究開発においてプロジェクトをリードし、工学的技術とその基礎学理を維持発展させる能力のある高度な技術者の育成を目的とする。

電気電子工学専攻では、電気・電子・情報通信工学を基盤とする学術分野における教育研究を行い、主として電力工学、電気機械、電子工学、電子応用、情報工学、電子物性および電子デバイスの領域における基礎学理を研鑽し、時代を先取りした応用開発力のある有能な人間を育成する。

教員免許「高専修免（工業）」は、電気電子工学専攻の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高校教員育成を目的として設置されている。

教職課程担当者と適時連携し指導を行うとともに、上記各領域の科目を履修することにより、教員免許「高専修免（工業）」に準ずる教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えている。なお本専攻における教員免許「高専修免（工業）」の対象者は、本専攻に入学する前に「高一種免（工業）」を取得している者に限定される。

● 工学研究科 建設工学専攻（高専修免【工業】）

工学研究科においては、人間形成に必要な教養、普遍的な幅広い基礎知識、専門知識並びにその応用力を修得し、時代の要請に応え、さらに時代を先取りする工学的技術開発とそれを支える基礎学理の教育研究を行って、発想を具現化するための複眼的な論理的思考法を訓練する。それにより、地域社会から国際社会において幅広く柔軟に活躍できる能力を身に付け、開拓者精神が旺盛で心身共に健全な技術者の育成を行い、有能な人間の育成をするべく教育の充実を図ってきた。博士前期課程においては、技術・研究開発においてプロジェクトをリードし、工学的技術とその基礎学理を維持発展させる能力のある高度な技術者の育成を目的とする。

建設工学専攻では、土木工学と建築学を基盤として、人間が生活する上で安心・安全な社会基盤と心豊かで快適な建築の環境を整備し、かつ、持続的発展可能な地球環境の開発・保全に関する分野の教育研究を行い、主として土木工学分野（構造工学系、コンクリート工学系、水工学系、地盤工学系、土木計画系）と建築学分野（建築構造学系、建築材料学系、建築環境・設備工学系、建築計画系、都市計画系、建築デザイン系、建築史・意匠系）の2分野12系の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。

建設工学専攻の上記理念に立って、特に、地球的視野に立って行動するための資質、変化の時代を生きる社会人に求められる資質、教員の職務から必然的に求められる資質を、建設工学の観点から教育・指導している。土木工学分野では、力学系、工学系、計画系の科目により、建設技術の基礎と応用の知識を深め、土木工学特別研究 A, B, C, D の研究指導を通じて教師になるための指導・助言を行っている。また、建築学分野では、工学系、計画系の科目により、建設技術、設計技術などの知識を深め、建築学特別演習 A, B, C, D の指導を通じて、教師になるための指導・助言を行っている。

これらのカリキュラムを通して、教員免許「高等学校教諭専修免許状（工業）」を取得するための専門性と教育指導能力を十分に培った学生教育を行っている。

● 工学研究科 応用化学専攻（高専修免【理科】）

工学研究科においては、人間形成に必要な教養、普遍的な幅広い基礎知識、専門知識並びにその応用力を修得し、時代の要請に応え、さらに時代を先取りする工学的技術開発とそれを支える基礎学理の教育研究を行って、発想を具現化するための複眼的な論理的思考法を訓練する。それにより、地域社会から国際社会において幅広く柔軟に活躍できる能力を身に付け、開拓者精神が旺盛で心身共に健全な技術者の育成を行い、有能な人間の育成をすべく教育の充実を図ってきた。博士前期課程においては、技術・研究開発においてプロジェクトをリードし、工学的技術とその基礎学理を維持発展させる能力のある高度な技術者の育成を目的とする。

応用化学専攻では、化学の基礎知識、専門知識をより深め、かつ、幅を広げ、それらの応用力を身に付けるとともに、先進的な化学技術者に必要な技術・研究開発能力を養い、地域社会、国、さらには地球的規模における責任を自覚して、産業界をはじめとする社会に貢献する教育研究を行って、主として物理化学、機能材料、有機材料化学、化学工学および有機合成化学の領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。

教員免許「高専修免（理科）」は、応用化学専攻の上記理念に立って、科学技術の高度化、産業構造・就業構造の変化、情報化、国際化などの社会変化に対応できる次世代を育てるための高等専門学校教員育成を目的として設置されている。物理化学、機能材料、有機材料化学、化学工学および有機合成化学の各研究分野における研究指導科目の特別研究 A, B, C, D（当該研究分野の科目を選択）、並びに講義主体の科目の、(1) 物理化学研究分野の物性化学特論など、(2) 機能材料研究分野の材料化学特論など、(3) 有機材料化学研究分野の有機材料化学特論など、(4) 化学工学研究分野の反応工学特論など、(5) 有機合成化学研究分野の有機反応特論などの科目を履修させると共に、教科専門の教師になるための指導・助言を行う。これらのカリキュラムを通して、高等専門学校教科「理科」の教員になるための高度な専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えています。

● 工学研究科 情報工学専攻（高専修免【情報】）

工学研究科においては、人間形成に必要な教養、普遍的な幅広い基礎知識、専門知識並びにその応用力を修得し、時代の要請に応え、さらに時代を先取りする工学的技術開発とそれを支える基礎学理の教育研究を行って、発想を具現化するための複眼的な論理的思考法を訓練する。それにより、地域社会から国際社会において幅広く柔軟に活躍できる能力を身に付け、開拓者精神が旺盛で心身共に健全な技術者の育成を行い、有能な人間の育成をするべく教育の充実を図ってきた。博士前期課程においては、技術・研究開発においてプロジェクトをリードし、工学的技術とその基礎学理を維持発展させる能力のある高度な技術者の育成を目的とする。

情報工学専攻では、情報工学分野に関する基礎知識・理解力を基盤として、当該分野に関する高度な専門的知識と柔軟な問題解決能力、さらに将来国際的に通用する情報技術者・研究者となるための国際的素養を身に付けさせる教育研究を行い、主として情報通信、メディア情報、知能情報および計算工学の4領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。情報通信では、各種マルチメディア情報の効率的な通信と通信制御方式を目的として、無線通信と信号処理、情報ネットワークの高性能化、情報通信の信頼性と安全性、情報流通システムの研究を行っている。メディア情報では、認識能の解明とコンピュータでの実現を目指して、画像認識技術としての形状復元や物体追跡技術、人を観る技術とその応用、複合現実感の研究を行っている。知能情報では、脳の機能解明や知的な働きをコンピュータで実現することを目指して、動眼制御、ニューラルネットのモデルやアルゴリズム、機械学習の仕組みと応用、データマイニングの研究を行っている。また計算工学では、コンピュータを用いた高速、大量の計算方法、理工学問題の確率・統計的シミュレーション、可視化技術をはじめ、定理の自動証明や記号計算の理論などの研究を行っている。

● 経営情報学研究科 経営情報学専攻（高専修免【商業】）

経営情報学研究科では、経営学・会計学・情報科学及び関連書専門領域における研究活動とともに、これらの専門領域にまたがる学際的な研究活動を展開する。そして、それらの研究成果を社会に提供するとともに、豊かな教養、自立心、公益意識をもち、広く国際的視野から物事を考え、上記の専門領域に関わる高度の学識・技術を身に付けた教育者となる人間を育成することを通じて社会に貢献する。

会計分野だけでなく経営・情報分野の幅広い視野と高度な会計専門知識を習得するために以下のようなカリキュラムに沿った教育者育成を行う。

(1) 情報・会計・経営分野の幅広い視野を養うために、「基礎科目群」を設けて情報・会計・経営の3分野の基礎知識を習得させる。

(2) 簿記会計の専門知識を習得させるために、「アカウンティング科目群」を設置する。ここでは、財務会計、簿記、会計情報システム、税法、管理会計などの高度な知識を習得する。

また、経営・情報分野の幅広い視野を養いつつ、高度な経営学や経済学の知識も習得する。企業経営のみならずソーシャル・ビジネスにおける経営戦略、経営組織、マーケティング、などの各分野の意義を考究し、適切に対応できる教育者を育成する。そのために以下のようなカリキュラムに沿った教育者育成を行う。

(1) 「ビジネス・マネジメント科目群」を設け、自発的学習ラインアップを形成し、経営・経済の専門知識を習得させる。

(2) 「ビジネス・マネジメント科目群」「アカウンティング科目群」に設けられた諸科目の実践性・効率性を高めるべく、「演習その他科目群」などにおいてできるかぎりケース・メソッド、ケース・スタディなどの教授法を取り入れ、ディスカッション能力の向上を図る。

● 国際人間学研究科 国際関係学専攻（高専修免【公民】）

国際人間学研究科では人文系諸科学と社会系諸科学の全体分野を展望する位置に立って、広く人間科学のフロンティアを拡大し、グローバルかつローカルな諸問題に挑戦できるような知的・創造的能力を養い、生活世界の様々な現場から高度な社会貢献を目指した実践的研究を遂行できる人間を育成するべく教育の充実を図ってきました。

国際関係学専攻では、政治学、経済学、社会学、人類学などを基盤として理論と実際、思考力と応用力のバランスを取りながら、広く国際政治、国際経済、人類文化上の諸問題、さらには同時代的な人間と社会の諸問題、平和構築、国際協力等の具体的・実践的な諸課題に取り組むことのできる高度専門職業人、有識社会人及び教育研究者を育成することを目標としています。

教員養成に対しても、国際社会における現代的な諸課題に関する高度な見識を深めるとともに、人類文化・社会の多様性の認識の上に立った個別の民族や国家の社会文化的個性の探求により、人類文化の総合的な理解を深めることで、現代国際社会の成り立ちと現状を俯瞰的・総合的に高度な分析ができ、それを適確に次世代に伝達できる人材を育成することを目標としています。

とくに、教職免許の「高専修免（公民）」は、政治学、経済学、国際法、文化人類学、社会学といった分野にかかる専門的な社会科目を配置するとともに、国際社会を総合的に理解するために必要な、国際政治学特論、国際経済学特論、国際社会学特論、文化人類学特論など多くの科目が配置されています。これらの科目を履修することで、現代国際社会を高度に読み解き、伝達する能力を身につけることができるとともに、高校で「公民」を教えるための教養と専門性が養えるでしょう。

● 国際人間学研究科 言語文化専攻

(高専修免【英語】【国語】・中専修免【英語】【国語】)

国際人間学研究科は、社会、文化の中で生きている人間のありようを地球的スケールから統合的に研究する新たな学問分野、すなわち「国際人間学 (Global Humanities)」の探求と学問的構築を目指しています。

人文系諸科学と社会系諸科学に架橋をかけて、人間と文化、民族と国家の研究のフロンティアを拡大し、グローバルな諸問題に挑戦できる知的創造的研究及びさまざまな現場から広く社会貢献を目指した実践的研究ができる人間を育成し、研究成果を通して社会に貢献することを目的としています。

言語文化専攻では、人間の言語文化を基礎とする、社会・文化などの事象や活動を対象とする複合的・総合的教育研究を行い、教育の過程を通じて、学生の自発性や知的・創造的能力を養います。豊かな教養と言語文化について専門的かつ体系的に理解した有為な人間の育成、社会へ貢献できる人材の育成を目指しています。

言語文化専攻における教職課程は、「英語」、「国語」に関して、それぞれ英語圏言語文化コースと日本語日本文化コースに設置されています。「中専修免(英語)」「高専修免(英語)」の教科指導に関する科目として「応用言語学特論 A/B」「英米文学特論 A/B/C/D」「英語教育法特論 C/D」「英語学特論 A/B/C/D/E/F/G/H」「応用言語学特論 C/D」「英語教育法特論 A/B」が設置されており、英語、英語教育及び言語についての専門的知識と応用力を養います。

「中専修免(国語)」「高専修免(国語)」の教科指導に関する科目として、「日本語学特論 A/B/C/D」「古典文学特論 A/B/C/D」「近代文学特論 A/B/C/D」「伝承文芸特論 A/B/C/D」「日本芸能特論 A/B/C」「国語教育特論」が設置されており、日本語、国語教育、日本文学及び日本文化についての専門的知識を修得することができます。教科を取り巻く文化的、社会的、歴史的背景について知識の深化を可能とする科目を設置することで、基礎的な教科や教科指導に関する専門的知識のみならず、人間・社会・文化の諸問題を国際的視野から統合的に把握する基礎的能力を涵養し、豊かな知識と人間理解を備えた「英語」「国語」教科教育が可能な人材を育成できると考えています。

● 国際人間学研究科 歴史学・地理学専攻 (高専修免【地理歴史】)

国際人間学研究科は、社会、文化の中で生きている人間のありようを地球的スケールから統合的に研究する新たな学問分野、すなわち「国際人間学 (Global Humanics)」の探求と学問的構築を目指しています。

人文系諸科学と社会系諸科学に架橋をかけて、人間と文化、民族と国家の研究のフロンティアを拡大し、グローバルな諸問題に挑戦できる知的創造的研究及びさまざまな現場から広く社会貢献を目指した実践的研究ができる人間を育成し、研究成果を通して社会に貢献することを目的としています。

歴史学・地理学専攻では、歴史学と地理学を教育研究上のディシプリンの両軸として、時間的意識と空間的意識を統合した知識と教養の修得を目指しています。歴史学を主専攻とする者は地理学を副専攻として研究し、地理学を主専攻とする者は歴史学を副専攻として研究することを奨励し、グローバル化とローカリゼーションが同時進行する現代社会の歴史進行を的確に判断できる人材、グローバルに考えローカルに行動できる高度専門職業人並びに教育研究者を育成しています。

教員養成に対しても、歴史学と地理学に関する幅広くかつ高度な専門知識に加え、歴史的事象や空間的事象について客観的に理解するための研究手法、さらには現代社会が直面する諸問題を解決するための具体的な手立てや高度な技能を習得することを重視しています。これにより教育者の資質として要求される教科指導力、ならびに様々な教育実践活動を適切に行っていくための技能・教育力を兼ね備えた教員を輩出することを目標としています。

また、歴史学分野では日本史・西洋史・東洋史の各時代・各地域に関する科目に加え、思想史・技術史・文化史・美術史といった分野別の科目を配置し、地理学分野では人文地理学・自然地理学に関する科目と共に、様々な情報を地理学的に分析する地理情報学を配置しています。こうした科目を履修させることにより、現代社会の諸相および課題について歴史学と地理学の両面からアプローチするための高度な専門的知識を有するとともに、教科指導や教材開発などの実践的知識・技能を身につけた高校の「地理歴史」の教育者を育成します。

● 応用生物学研究科 応用生物学専攻（高専修免【理科】）

応用生物学研究科は、バイオサイエンス・バイオテクノロジーを基盤とする複合的な学術領域における教育研究を行い、有能な人間の育成及び研究を通じて社会に貢献することを目的とする。博士前期課程においては、下記の領域に関して特に先端科学技術を実験・演習を通じて教育し、もって応用生物学分野とりわけ基盤生命科学・環境生物学・食品栄養科学における高度の専門職業人を育成することを主目的とする。本研究科は1つの専攻、応用生物学専攻、のみから成るが、教育研究は、基盤生命科学・環境生命科学・食品栄養科学の3領域を主要な分野として行う。

高等学校教諭専修免許状（理科）に対しては、基盤生命科学および環境生物学領域の特徴ある科目を用意している。基盤生命科学領域では、バイオサイエンス・バイオテクノロジーが展開させてきた基盤的な研究方法や技術領域を創造的に継承発展させ、多様な生物機能の選択的な利活用を図る分野を、生命倫理、生物産業倫理の涵養を含めて教育研究する。環境生物学領域では、環境の変化が人間の生活に及ぼす負の影響を予測・予防することを目指し、環境の遺伝子レベルから個体、集団レベルまでの動態解析を基盤とし、多様な生物機能を活用して環境の保全・修復および循環型社会の構築に係わる分野を、環境倫理の涵養を含めて教育研究する。

本大学院は学部と強い連携を取りつつ、現代のバイオ技術者に要求されるこれらの資質を高いレベルまで修得できるよう教育課程が構築されている。講義科目で、本研究科の専門領域について理解を深める（特論）。院生は指導教授、副指導教授を選択し、指導教授は副指導教授と連携しつつ研究および、修士論文の作成を指導している（演習と特別研究）。また、現代のバイオサイエンス・バイオテクノロジー分野で高度の技術者として活動するためには、専門領域の技術について習熟していることが求められる。このため、「研究法特論」という講義を設けている。この科目は講義科目であるが、講義を基に、各自実験・実習を行い、広い分野にわたって専門技術を習得するシステムになっている。これらの科目を履修させると共に、教科専門の立場から教師になるための指導・助言を与えている。以上のカリキュラムを通して、高等学校教科「理科」の専修免許状をもつ教員になるための専門性と教育指導の専門家としての資質を十分培えるものと考えている。

● 生命健康科学研究科 看護学専攻（養護専修免）

子どもたちの健康問題が複雑・多様化するなか、学校保健の専門職である養護教諭に対する期待が高まっています。同時に、次世代を育てる教員養成には、深い人間愛や社会貢献の姿勢を養うことが求められています。子どもたちの命を護り育てる専門職である養護教諭が学校保健の場における理論と実践の研究能力や専門性を高めることは、子どもたちの健やかな発育発達を支援することにつながります。

看護学専攻では、他職種との連携・協同をはかる能力や学校における医療的ケアの実践能力を高め、子どもたちの健康問題を解明していく実践能力、さらに自己の養護実践を問い直し、新たな理論を構築していく研究能力を養うことで、養護教育に関する研究者・上級教育者を目指す人材を育成します。

● 教育学研究科 教育学専攻（幼稚園専修免）

中部大学の教育理念のもと、平成 20 年 4 月に 7 番目の学部として現代教育学部が設置され、幼児教育学科と児童教育学科（現「現代教育学科」2017 年 4 月 1 日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載）の 2 学科が創設された。なかでも、幼児教育学科に関しては、近年、家庭や地域社会の教育力の衰退、人間関係の希薄化など社会状況の変化にともない、就学前の教育・保育が抱える問題が複雑・多様化する一方、幼稚園教員あるいは保育関係者が対応すべき課題が山積している。例えば、健全な心身の発達が不十分な幼児や周囲の環境に関わり、遊びに生きて学ぶ意欲の乏しい幼児、子育てに不安を抱く保護者、児童虐待への対応や外国籍の園児への教育支援、幼保小連携の問題など、幼稚園あるいは保育現場の抱えている問題は多岐にわたる。

今後、こうした状況に対応するために、高度な専門職としての幼稚園教員あるいは保育関係者の資質が求められている。教育学専攻で目指す「高度な専門的知識・技能をはじめ、実践的指導力やコミュニケーション力等の育成」はこれまで以上に不可欠になり必要とされる。

教育学専攻では、幼稚園教諭専修免許状を取得できる教職課程を設置し、現在教員あるいは保育者に求められる専門性・コミュニケーション力等の資質能力の向上に鑑み、「高度な実践的指導力」を身に付けたミドルリーダーの養成に寄与することで、今日幼児・保育現場において必要とされている教員養成を行っている。

そこで、教育学研究科教育学専攻では、現在だけでなく、次世代の子どもたちをめぐる複雑な問題に対応でき、改善に向けて果敢に挑戦していく教育者を輩出するために教職課程を設置する。幼稚園教育要領に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」とあるように、現在の幼児・保育現場においては、高度な専門的知識だけではなく、実践能力やコミュニケーション能力をもった教員の養成が必要である。これは、本専攻の教員養成の理念である「高度な専門的知識・技能をはじめ、実践的指導力やコミュニケーション力等の育成」にふさわしく、目的達成のために大いに役に立つ。

前述の教員を養成するために、教育学・保育学をはじめ、教育心理学、教科教育学を基盤とし、各種発達支援科目を配置して、学際的、実践的な専門教育を展開し、子どもたちの生活の全局面で現れる多様な発達の危機に対応できる高い専門性と総合力の資質向上を目指す。その重要な一環として、本教育学専攻に幼稚園教諭専修免許状が取得できる教職課程を設置している。

以上のとおりに、大学院における高度な専門職業人としての資質を持ち、幼児教育・保育現場において、多様で複雑な問題に対応してきめ細やかな指導を行う質の高い教員を目指す。そして教育現場においてリーダーシップを発揮する「高度な実践的指導力」を備えた幼稚園教員の養成を展開する。

● 教育学研究科 教育学専攻（小学校専修免）

中部大学の教育理念のもと、平成20年4月に7番目の学部として現代教育学部が設置され、児童教育学科（現「現代教育学科」2017年4月1日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載）と幼児教育学科の2学科が創設された。なかでも、現代教育学科では、教育実践力、教育支援力を備えた専門的職業人の養成を目指し、教育目標として「次世代教育」のあり方についての深い知識、教育実践力および「人間的資質」を備えた人材を養成することを掲げた。現代教育学科では、次世代を健全に育成する人材に、とりわけ児童や生徒に対して温かいまなざしと愛情に裏打ちされた専門的な知識をもち、自らの生き甲斐として継続的に専門的知識を深め、自己の成長を追究する言行一致型の教育者を養成することを目標としている。

現代教育学科の教育目標を達成するために、小学校教諭および特別支援学校教諭の免許取得を可能にする教育課程のもとに教育研究活動を推進し、その後も継続して学ぶことができるように大学院教育学研究科を設置している。

また、近年、社会状況の変化にともない、学校教育が抱える問題が、複雑・多様化する一方、教員が対応すべき課題が山積している。例えば、子どもたちの学力・学習意欲の低下をはじめ、いじめや不登校等の生徒指導上の課題への対応、特別支援教育の充実、外国人の児童生徒教育をめぐる状況、家庭や地域との連携協力の必要性など枚挙に暇がない。さらに、いわゆる団塊の世代の教員の大量退職に伴い、経験の浅い教員が増え、リーダーシップのとれる中堅教員の不足が危惧されている。

こうした状況に対応するために、高度な専門的知識・技能をはじめ、実践的指導力やコミュニケーション力等の育成がこれまで以上に求められている。

そのため、教員に求められる資質能力の向上に鑑み、教育学研究科教育学専攻に小学校教諭専修免許状を取得できる教職課程を置き、教員養成を行っている。

上記に述べたように、教育学専攻では次世代の子どもたちをめぐる複雑な問題に対応するため、教育学・保育学をはじめ、教育心理学、教科教育学を基盤とし、各種発達支援科目を配置している。そして、子どもたちの生活の全局面で現れる多様な発達の危機に対して、学際的、実践的な専門教育を展開して、高い専門性と総合力を備えた人材を養成し、これらの危機の改善に向けて果敢に挑戦していく教育者を輩出することを設置の目的とし、時代の教育動向の変化を見据えながら、小学校現場が抱えている多様な問題に対応できる高度な専門職業人としての小学校教員養成を展開する。